

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

平成20年に三重県伊賀市の比自岐地区住民自治協議会内に比自岐地区獣害対策協議会が設立され、3集落の全世帯が一体となって定期的な侵入防止柵の点検と補修作業を行うほか、ICTを活用した地域一体的な活動を維持するため、研修会や機関誌による情報発信により知識を浸透させ、住民自らが集落を守る意識を醸成。

ひじき
比自岐地区獣害対策協議会

もりもと としかず
（会長：森本 壽一）

主な取組

三重県伊賀市

- 地域住民の連携による被害対策として、侵入防止柵の維持管理は、3集落全世帯参加（144戸）の当番制で実施。点検結果をとりまとめ、市の補助金を活用して補修資材を購入。また、シカ用の大型捕獲檻を2台設置しており、当番制で草刈りやエサやりなどの管理を行い、地区外の狩猟者の協力のもと捕獲。
- サル対策として、平成26年から27年に、三重県農業研究所の実証試験に協力し、ICT（遠隔操作システム）を活用した大型捕獲檻で加害レベルの高い群れの個体数調整に成功し、被害はほぼ皆無。
- 平成29年の研究事業により大型捕獲檻とICTの活用によるシカの捕獲を開始。取組を継続し、地域住民が連携しながら当番制でエサを管理するための体制を確立。市民センター職員が遠隔操作システムによりシカ誘引状況を確認し、位置を指示することで、シカ誘引状況に応じた給餌を実施。

【被害金額（比自岐地区内）】

約6,500千円（活動開始時：平成24年度）→約141千円（令和4年度）